

④ 昭和41年11月「県政ニュースNo.83」



・トピックス～開通した田沢湖線

秋田・岩手両県民の長い間の念願だった、国鉄、田沢湖線の開通式が、去る10月20日、大曲駅で行われました。

総工費40億円。岩手県赤湊駅と本県の生保内駅間、18.4キロが結ばれたものです。沿線各駅には、あいにくの雨にもかかわらず、小中学生や地元の人達が、小旗を振って、開通を祝いました。

田沢湖駅では、(略)秋田鉄道管理局長、小畑秋田県知事が、紅白のテープにハサミを入れ、喜びに沸く地元の人々が見守る中を祝賀列車は一路、

盛岡へ向かって出発しました。

秋田・盛岡を2時間半で結ぶこの田沢湖線は、両県の観光資源の開発と経済交流に大きな役割を果たしていくことでしょう。

⑤ 昭和44年10月「県政ニュースNo.118」 ・ふるさとの四季～駒踊り(藤里町)



山本郡藤里町。山懐にあるこの町の歴史は、長い自然との闘いであった。何時も美しく流れる水流は、一夜の雨で急激に水かさを増し、その度ごとに人々は水害におびえて一夜を過ごしたのである。

しかし、まもなく、その水害も無くなる。来年10月の完成を目指して、素波里ダムの建設が急ピッチで進められているためである。

この町に、今年も秋祭りがやってきた。秋祭りには、県の無形文化財である有名な「駒踊り」が披露される。

駒踊りは、今から、およそ400年前、秋田藩主、佐竹公が、水戸から秋田に国入りする際、殿様の旅の寂しさをお慰めしようと家来達が見せた道中芸がその源と伝えられる。

この秋祭りには、駒踊りを見ようと近くの町や村から沢山の見物客がやって来る。馬上の武士は、昔の軍記物にある有名な戦の様子を踊りに表現していると言われる。

昭和10年頃まで、別名、「収穫踊り」とも言われるこの駒踊りには、若者は強制的に参加させられたと言う。そして、この駒踊りが終わると、県内は本格的な収穫の秋を迎えるのである。

■ 秋田県公文書館 ■

〒010-0952 秋田市山王新町14-31

TEL 018-866-8301

FAX 018-866-8303

E-mail koubun@apl.pref.akita.jp



【公文書館からのお知らせ】

平成30年度企画展「秋田と海」
11月2日(金)～12月4日(火)
当館2階特別展示室で開催中!

歴史講座 企画展「秋田と海」を見る
11月29日(木)午後1時30分から
当館3階多目的ホールで開催

県政映画上映会

～秋田昭和の時代 映像アーカイブ～

平成30年11月3日(土) 秋田県公文書館 3階 多目的ホール
午前の部 午前11時～正午 午後の部 午後2時～午後3時

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆

◆ 前半

① 昭和31年3月「県政だよりNo.5」

- ・第34回全日本スキー選手権大会
- ・県政トピックス
春鯉の出稼ぎ始まる、冬の八幡平ほか
- ・特報 能代市の大火



② 昭和36年9月「県政ニュースNo.36」

- ・第16回国体開く～夏期ボート競技会
- ・施設の完成あいつぐ～秋田民衆駅、県民会館ほか
- ・県民の窓～西馬音内の盆踊り

◆ 後半

③ 昭和39年7月「県政ニュースNo.58」

- ・明日の農業をにあって～ゼミナール開講
- ・トピックス
空の新路線、待望の道路工事
- ・ふるさと散歩～院内



④ 昭和41年11月「県政ニュースNo.83」

- ・文化功労を讃えて
- ・トピックス
開通した田沢湖線、県営萩形ダム完成
- ・若い力～農村の花嫁さんめざして



⑤ 昭和44年10月「県政ニュースNo.118」

- ・秋田博閉幕
- ・一世紀を生きる～101歳の長寿者を祝う
- ・ふるさとの四季～駒踊り(藤里町)

～はじめに～

郷土秋田のニュース映像を5本上映！

かつて「県政映画」は、「県政だより」「県政ニュース」などの名前で、県内各地の映画館で幕あいに上映され、その時々^にの県政に関するニュースや各地域の話題などを提供していました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し大勢の皆様でご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回は「文化の日」にあわせて、昭和30年頃の春^{にしん}鯉の出稼ぎに関するニュースのほか、ふるさとの美しい四季を紹介する映像など5本の作品を上映します。

どれも当時を偲ばせる貴重な映像ばかりです。懐かしい昭和の秋田をぜひご覧ください。



～ナレーション採録～ ■ナレーションの一部を採録しました■

① 昭和31年3月「県だよりNo. 5」



・県政トピックス～春^{にしん}鯉の出稼ぎ始まる

雪国秋田の春は、まず「春^{にしん}鯉の出稼ぎ」から始まります。本県からは、毎年約2千人の人々が北海の漁場へ働きに出ますが、今年もまた、大漁を祈って出発してゆきます。

こうして、各村々から集まって来た出稼ぎ者達は、一団となって出発しますが、県では係員を派遣して車中の連絡に当たらせています。

駅には、しばしの別れを惜しむ家族達の姿も見えますが、これらの人々は約2か月間、漁獲などに働き、農繁期までには帰ってくるのです。

・冬の八幡平

自然公園八幡平は、近く十和田国立公園に編入されることになりました。

八幡平の地域には、アオモリトドマツの自然林が開けていますが、これが冬には美しい樹氷の別天地と化します。

八幡平の頂上を中心に、蒸ノ湯、後生掛温泉を経て、柕森、焼山方面、東は茶臼岳、国鉄「山の家」を経て、松尾鉱山方面、南は藤七温泉を経て、岩手山方面へと、スロープは実に広大で雪の質も良く、山岳スキーの興味が一杯に繰り広げられます。

十和田八幡平を結ぶ雄大な規模と山水一連の景観は、我が国でもまれな景勝地となるでしょう。



② 昭和36年9月「県政ニュースNo. 36」



・施設の完成あいつぐ～秋田民衆駅

東北で盛岡に次いで、二番目の民衆駅、秋田駅が、この程完成しました。

昨年の8月から、総工費3億7,000万円で建築中だったこの建物は、鉄筋コンクリート2階建てで、面積5,900平方メートル、今までの駅より、ざっと5倍もある大きさ。1階の出札口や待合室は10年後の乗降客が今の2倍になると見込んで設計しただけあって、日に10万人以上のお客を楽にさばけるという、ゆったりとしたもの。

2階はステーションデパートで、1階の待合室とは、エスカレーターで結ばれており、また、ホームから入れるようになっています。

ここには、県内の名産品や日用品、食堂などがあり、旅行者や通勤の人達に利用されています。県都秋田市の表玄関に相応しい交通の拠点として、その機能を充分果たすことでしょう。

③ 昭和39年7月「県政ニュースNo. 58」



・トピックス～空の新路線

日本国内航空の札幌・大阪間の新路線が、この程、開設されました。空港では、新路線の就航を祝って、秋田、大阪両県知事のメッセージ交換、次いで、乗組員へ花束を贈呈します。

この路線に使われる機種は、40人乗りのコンベア240型で、当分の間は、大阪行きを偶数日、札幌行きは奇数日と、片道運航します。秋田・大阪間を約4時間で飛ぶ、この空の新路線は、本県と関西方面の経済交流の架橋となることでしょう。

・待望の道路工事

男鹿県立公園の開発に大きな役割を果たす、門前と加茂間、7キロの道路新設工事が、去る24日、自衛隊の手で始められました。工事現場は、男鹿半島の海岸線では最も険しい所だけに、これまで開発が遅れていたものです。（略）この後、第6師団施設大隊200名によって、力強く作業が開始されました。9月には、この海岸道路が開通し、待望の男鹿半島の一周が出来るようになります。男鹿県立公園の発展が期待されます。



